



NPO法人暴力防止情報スペース・APIS (アピス)



第10回通常総会を都島区社会福祉法人のあるふれあいセンター都島の部
屋をお借りして開催しました。午後からは当法人が提供しているプログラム
を体験していただき、「出張APIS」を行い、地域の方々との交流を深めること
ができました。

2015/5/9

Index

- とびらの写真(総会) 1
- 巻頭言 APIS ニュースレター60号発行 2
- APIS 報告 CAP センター・JAPAN 総会参加報告 (山田悦子) 3
- APIS 報告 子育てサロン始めました (横山恵子) 4
- 会員からの報告 ネパール地震被災者支援チャリティーフリーマーケット (大森淑子) 5
- 映画の紹介 海街diary (後藤真幸) 5
サ・プレゼンテーション
- The Presentation "APIS" (横山恵子) 6
- 本の感想 「家族という病い」を読んで (佐々木興子) 7
- APIS 報告 総会報告 (横山恵子) 7
- 活動記録 8





お気づきでしょうか、このニュースレターが60号であることに。1年に4回発行することを決めて、2000年10月に創刊号(No.1)を発行してから、15年間。一度も途切れることなく出し続けてきたのです。これはなかなかたいしたことではないですか。止めずに続けて来たからではありませんが、よくぞまあここまで来たなあ、振り返ってみましょうか。

創刊号を出したのは、複数の活動の拠点として事務所を守口市にし開設した2000年です。この当時はまだNPO法人にはなっていませんが、「暴力の情報収集と暴力根絶のための発信」を活動の方針に置いていることは今と同じです。〈フェミニズムの視点を持った電話相談員・サポーターのための養成講座〉と〈講演会 男性学から見たジェンダーと暴力〉の開催を知らせる記事が載っています。ユニークなのはスタッフ紹介としてメンバーの似顔絵を載せているところです。

当初は勉強熱心なメンバーが参加した講座や APIS で主催した講演会の報告や、CAP ワークショップに参加した大人や子どもたちの声など、APIS が提供したプログラムへの感想を載せています。

また、2002年10月発行の9号には「支援者の二次受傷」という記事があります。

『暴力防止情報スペース・APIS』は、あらゆる暴力の根絶を願って活動する人たちがネットワークしていますが、その私たち自身の安全、安心ということを最大に大切に努力をしていかなければならないのではないのでしょうか。支援の現場にいると、どうも自分に対して無頓着になり、無理をしてしまいがちです。だからこそ、「支援者も二次受傷することがあり、セルフケアが必要なんだ」ということを意識し、そのための方法を考えることが大切だと感じています。

早い時期から自分たち自身を大切にするにはどうした良いのだろうかという問題意識があったことが分かります。このことは、様々な困難に直面しながらも活動を継続出来ている理由の一つではないかと思えます。

最近では、人権研修などの講師として出かけたことの記事が増えています。主催者のニーズに沿ったプログラム作りを心掛け、アンケートで参加者の感想をお聞きすることで、伝え方に磨きをかけていますが、その一端を講師を担当したメンバーが報告しています。

APIS での活動はメンバーそれぞれの暮らし方によるそれぞれのペースでの関わり方で進めています。以前事務担当して現在正規社員として働いているメンバーからのメッセージです。

祝☆ニュースレター60号!!

スタートより続けることが難しいと感じるこの頃。

これだけ続けてニュースレターを発行できたことはすごいことです!

ニュースレターの購読を続け、アピスを支えてくださっている会員の皆さん、発行を続けているスタッフのみんな、素晴らしいです!!

ありがとうございます!!

これからも続けていけるよう、よろしくお願いします。

木村ゆかり